

那 摺

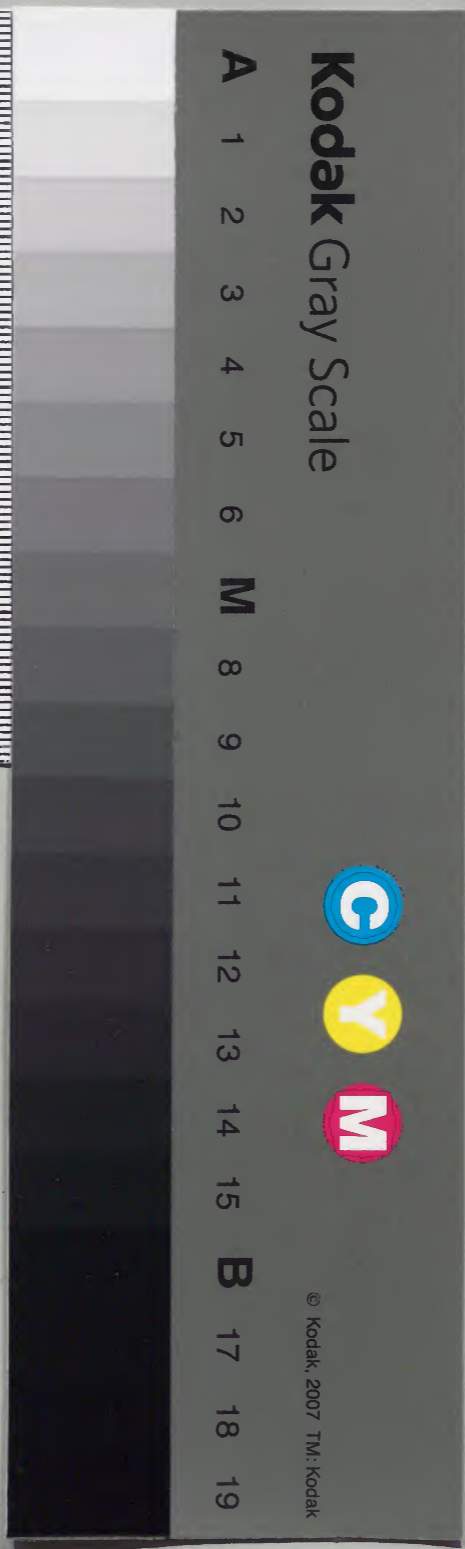
和書門			
一八七〇二	二一八	四八	三
類	號	函	架
冊	冊	冊	冊

内閣文庫			
一八七〇二	一三	一七	三〇三
類	冊	架	函
類	冊	架	函

(八中)

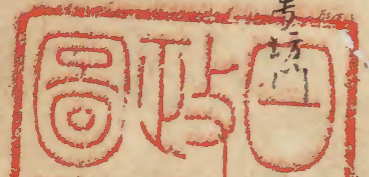
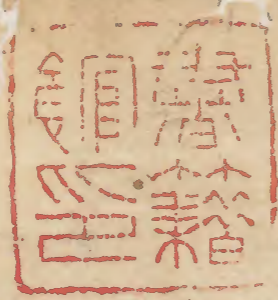
内閣文庫	
番 號	和 18702
冊 數	13 (8)
函 號	203 147

上之八
止



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

此段聖人三
一度之誤有
況ヤ平人ニ
ヲサテラヤ
ニテ物之上等之
アヤニテラア
ヤニテラハ
派也与



信清

今出はれは **後漢** かわり **五柄**

いりしは **流** なる **五丸**

牛と追 **前板**

有の量 **希**

いりしは **五丸**

いりしは **五丸**

いりしは **五丸**

いりしは **五丸**

いりしは **五丸**

いりしは **五丸**

いりしは **五丸**

と出のりけり

菊亭無木西園寺

太政大臣實兼の男也

有栢川

欽枕亦云有崇川

本院邊

ちりぬゆる

前之のりけり

京極前

右二條大皇太后

御時中院とて松枝映り

と云ふ又云老後みそらわね

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

と云ふ

王倪

女房の右とてこれん義未詳

丸人ぬれ右より其義とら

力を通方といひ矢と金僕姑

采といひ魚と姫隅といひ餅

みぬ寓言のれ其語缺正倪

ひく解釈とす又佛経

こと亦元朝の人なる胡

鉄木直也

あつあつしりらむ道の道路とわらりて人戸
あちちむむいそとふそをりては尻也
こを傳へり

は陰がらくの世びとて仙道と称する者か
しとて我執うて閑静とてのそとびたり

誠をそれを御ひわらうて朝小鏡とて
暮亦一過とてしる馬人あり一旦溘死とる

とて行はるるあつあつぬ亦閑静とてあつみ
飛城乃失くす仙道と修する者

とわれし其轉ゆせしむる世教の
めと思ふらるるいこととらわらるるが

海く其師のいりて仇とせむ死と
快くするしとれらるるむ善ぬこと

明の中とせ世乃人の義なり仇とて度ま
むとすしとてあつらるるかろく者

有垢とわらるる
寺院乃號しぬあつれ物も右にけり本

しりり人ありて疎たるわらぬこと
付ける也は比りありて案一才定とあり

あつらるるあつらるるあつらるる
行はるるあつらるるあつらるる

とて

あつらるるあつらるるあつらるる
行はるるあつらるるあつらるる
とて

黒流三のいはは板の人の
セツイ

多怨とんかし是皆かしくはるふわしは有
わらふはしよのひいしうく物々々女車馬鞋
求名うくくわぬくくくくくくくくくくく
子路の袖のひあわくひやくよしとんく東
坡山谷の庵女常どらりひひ朱文公の郭
長陽身及段目4何くくくくくくくくくく
甫とまはれ難くくくくくくくくくくく
友の音豊家の求名愈くくくくくくくく
濡沾のぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

鯉れあつもの食くる日替身くもくとかん
いそはく物物物物物物物物物物物物物
から飛く山前ていさくくくくくくくく
しとられ道ありきまは難くくくくくく
草の山陽よりくくくくくくくくくく
らと其外かんてらくくくくくくくく
の事ありはえ物くくくくくくくくく
その山陽人くくくくくくくくくく
てうくくくくくくくくくくくくく
し事えんからくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
まうららら

山陽山陽

鯉ハ羹食ニシテ自ハ鱗ヲ去リシテ食ス

魚を膠ノ小ノ福ノ多ク鯉ノ子ノ瓊ノ碎ノ銀ノ魚ノ

魚膠ノと墨ノ一ニ磨クカニセル事ヲ思フテ

素シ之ヲ一ニ行ハラズ周ノ詩ノ魚ノ鱗ノ鱗ノ

鯉ノの山ノ定メ其ノ食ヲ魚ノ何ノ之ノ鯉ノと云フ魯ノ君ノ

孔子ノ鯉ノ魚ノと贈ル之ヲ一ニ行ハラズ鯉ノ魚ノをシテ

物ノと云フ之ヲ一ニ行ハラズ佳ノ魚ノガシヤ

雉ノ儀ノ礼ノ相ノ見ノ之ノ各ノ執ノ雉ノ大ノ史ノ執ノ鷹ノ注ノ雉ノ取ノ其ノ宗ノ

介ノ不ノ失ノ節ノ鷹ノ取ノ其ノ儀ノ時ノ而ノ行ハル也昏ノ礼ノ納ノ未ノ用ノ鷹ノ

松茸ノ 中茸ノ細目ノ小菌ノ茸ノ草ノ茸ノ類ノハシ一ニ香ノ茸ノニシ

わらわら茸ノの影ノのうノ一ニ行ハラズと云フ

云フ日ノ中ノ茸ノの字ノと書ク年ノの字ノと書ク之ノをシテ

一ニ行ハラズ與ノ和ノ集ノ有ノ松ノ茸ノ須ノ茸ノ字ノと云フ鹿ノ

茸ノの茸ノの字ノ義ノと云フ之ヲ一ニ行ハラズと云フ茸ノと書ク

るるのり

出入ノのり 西園ノ寺ノ實ノ成ノ色ノ常ノ盤ノ井ノ相

四ノと号ノと別ノ中ノ宮ノの文ノ也

史ノ記ノと鷹ノと云フ堯ノ舜ノ三ノ代ノの射ノと云フ相ノ見ノ禮ノ

且ノ田ノ々ノ物ノのりノ素ノ曲ノ一ニ生ノ死ノと云フ之ノをシテ

史ノのノ字ノ義ノと云フ之ノをシテノ死ノ能ノ能ノ知ノと云フ

也鷹ノの射ノと云フ之ノをシテノ行ノ列ノの次ノと云フ礼ノ儀

一ニ行ハラズ知ノハシ死ノ々ノ射ノけノカノ事ノのりノと云フ宗

唐丹之魚 小野之鮠 池之魚 山梁之鮠
池之鮠 孔子之時 載之の鮠 又鮠の草書
名つて 牽の魚 又鳥 貢羽 賦也
夏羽 雉とわたり 羽山より 其也 乃 鮠と云
て 于 羽の 旌旗の 節と する也 是 也 也
多 見 多 くと 然 然と 鴈 鮠 鮠 鮠 鮠
大 吏 鴈 と なる 見 見 見 見 見 見 見 見
る 礼 多 なる 見 見 見 見 見 見 見 見
用 用 用 用 用 用 用 用 用 用 用 用
今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今
庖 厨 と なる 義 義 義 義 義 義 義 義

百七

鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海
此は 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海
と 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海
の 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海
と 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海
し 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海 鎌倉の海

鯉と云ふ 本草 細目 韻書 等 分明 ありし 海 篇 中
鏡 鯉 音 堅 夫 大 綱 也 と あり 萬 葉 集 卷 九 水 江
之 浦 島 兒 之 堅 思 釣 鯛 釣 松 及 七 日 と あり 又 奈 部
大 輔 石 上 堅 思 釣 鯛 釣 松 及 七 日 と あり 又 奈 部
一 の も たら 体 若 集 あり 鯉 思 釣 鯛 釣 松 及 七 日 と あり 又 奈 部
鯉 と 思 釣 鯛 釣 松 及 七 日 と あり 又 奈 部

鳥のつゝハ公のむし人先のめんや生と

昔の目やえんは

王子猷の夢を夢と

道遠のまら

凡のさき禽たる

文のゆるめ

周礼六畜注歎可畜者

六畜牛馬羊犬豕雞養之日畧用之日牲又云在

野日歎在家日畜と畧同許救及

莊子秋水篇何謂牛馬四足是謂天落馬首穿牛

鼻是謂人郭象注曰人可不服牛乘馬乎服牛乘

馬可不穿絡之乎牛馬不辭穿絡者天余之固

尚也苟當乎天命則雖寄之人乎而本在乎天也

希送口我云牛馬四足得於天自然者不絡不穿將無

所用世便是人々の暇事

大い海のりやぬまぐ 金樓子陶犬無守夜之警

凡雞無司晨之益 東坡云養狗以捕鼠不可以無

鼠而養不捕之猫畜犬以防其不潔可以無吠而

犬家こといあつぬれし 孟子雞鳴狗吠相聞而達

乎四境 老子云鄰國相望雞犬之音相聞

走乃歎之 莊子天地篇固可以為得乎則鳩鴉

之在籠籠竟亦可以得矣在籠繳之中而自以為得則

是罪人交臂在止指命虎豹在於囊檻亦可笑

司馬遷報任少卿書曰撞虎在深山百獸震恐

食ハ人の天ツラ 帝紀 禮記 農官 爲人天農
爲政本倉廩實則知礼節衣食之則亦耻忘廉耻
史記 鄼食其傳云王者以民人爲天而民人以食爲
天索隱曰出管子 論語大全云此語必引之云天
者人資而全者也

郷當念篇一野人飲食の品節と志原一
周禮儀礼禮記のくし膳羞乃事と祥如
と休イ飲食の味と志とてくし調る時
らとのくし口くし入病多くくしぬぬに腹
を忍イくしくし月易くし溜澀のわぬ
ちるゆりゆりくしくし子下言此美と
くしくし困のくしくし事もくし事もくし

多能回昌之
作梳魚ツリ
鳥イリ作
兼産

工の事と司くし周礼の考部と世
てくしくしの器をくしくし記と後
世れぬとくしくし事乃括ぬ
を云或の畫くし或の樂器と作くしわら
多能ハ君子ハ耻はに也 論語子罕篇太宰向
子貢曰夫子聖者与何其多能也子貢曰固天縱之將聖
又多能也子問之曰夫宰知我乎吾亦也賤故多能鄙
事君子多乎哉不多也

詩云不巧亦絲竹之妙也 文選十之魚
推賦序枕骨康博綜枝藝於絲竹特妙
迷玄此道 八雲抄和云に函云神有

けは後行の管後法としてこの世を治班
 一とてこれを理を以てわくは古の詩を以
 人の心からわくるまじく礼儀を以て海を貫
 之の家の詞の人此年亦ちの一とてしるれ
 の上代の事也今此世の事を後述す也深遠
 ならずともまじく忘れず人より形も
 音楽の道律呂の調り人の年を以て
 一とてしるれ人の心感動して善くし
 め海世の風を以てしるれ人の子游氏成と居
 るに礼樂を以て孔子弦歌の教を以てして
 割鶏馬用牛力とて武城を小邑也大圃と
 居る法は用多しなりす也兼好の世此
 初より糸竹も金鉄のことありきし半
 刀の心あるまじく礼樂を以てしるれ人此世
 ならず人に古今の礼を以てしるれ
 用多し今樂を古の樂よりしるれ
 と又古の事もあつてしるれ古の事
 るまじく風を以てしるれ俗を以てしるれ
 てしるれしるれ孔子游道を以てしるれ
 人を以てしるれ小人の心もあつてしるれ
 子游の事もあつてしるれ孔子の心もあつてしるれ
 初よりしるれ

其益のよきなりして時を極むとてなり

凡人とも僻^ヒ平^ヒ少^シ人とも母^ハ之^ノ一^ニ國^ノはあ
まの^ニあ^ハ止^ムと^ハい^ハは^レし^テあ^ハは^レる^ハ兒^ノの^ノ解
し^テあ^ハま^ハら^ノの^ノ暇^ハ幾^クな^リ以^テ思^ハふ^ハ一^ニ人^ノは^ハあ
止^ムと^ハえ^レば^シて^ハい^ハま^ハる^ハに^ハ中^ニ一^ニ食^ハ物^ハ也^ニ
小^シき^ニも^ハれ^ハ才^ハ三^ニに^ハ居^ルる^ハ也^ニ人^ノ間^ノノ^ノ大^ニ事^ハは^ハ
三^ニ亦^ハと^ハい^ハは^レる^ハ饑^シと^ハ言^ハふ^ハす^ハ風^ノ雨^ハ小^シき^ハは^レ
し^テ一^ニて^ハ閑^ニい^ハと^ハと^ハ樂^シと^ハ身^ハを^ハく^ハ一^ニ人^ノ皆^ハ
あ^ハら^ハ病^ハを^ハつ^クと^ハい^ハは^レれ^ル其^ノ志^ハの^ハひ^ハを^ハく^ハ
啓^ス瘵^トと^ハい^ハは^レる^ハを^ハく^ハ一^ニ人^ノ皆^ハ一^ニ事^ハ
未^ダ地^ハを^ハく^ハい^ハは^レば^ハ四^ニけ^レる^ハは^レあ^ハら^ハ
と^ハい^ハは^レ四^ノの^ハと^ハい^ハは^レと^ハ驕^トと^ハ言^ハふ^ハ事^ハ儉^約か
ら^ハ極^メる^ハ一^ニ事^ハと^ハい^ハは^レる^ハ

儉約ハ
物ハ
心ハ
ヒ
タル
也

儉約ハ
一^ニ事^ハ

才^ハ一^ニ食^ハ物^ハ 警^ハ座^ハ新^ハ書^ハ云^ハ居^ル服^ハ食^ハ三^ニ等^ハ湯^ハ東^ハ谷

諺^ハ人^ノ曰^ハ学^ブ者^ハ居^ル中^ニ等^ノ屋^ニ衣^ハ下^ニ等^ノ衣^ニ食^ハ儉^約者^ハ上^ニ等^ノ食^ニ

何^レ者^ハ茅^ノ茨^ノ土^ノ階^ハ非^ズ今^ノ所^ニ宜^シ瓦^ノ屋^ハ八^ニ九^ノ間^ハ僅^ニ藏^ハ固^ニ書^ハ

是^レ矣^ハ故^ニ曰^ハ中^ニ等^ノ屋^ニ衣^ハ不^ズ以^テ綾^ノ羅^ノ錦^ノ練^ノ也^ハ身^ハを^ハく^ハ一^ニ事^ハ

適^ニ宜^シ曰^ハ者^ハ足^ニ矣^ハ故^ニ曰^ハ下^ニ等^ノ食^ニ至^ハ於^テ飲^ハ則^チ當^ニ遠^ニ求^フ

各^ノ勝^ハ物^ハ山^ノ珍^ハ海^ノ錯^ハ名^ハ茶^ハ法^ハ酒^ハ酒^ハ物^ハを^ハ備^ヘ度^ハ不^ズ為^ス凡

流^ハ俗^ハ士^ハ故^ニ曰^ハ上^ニ等^ノ食^ニ

多^クし^テ人^ノハ^ハ病^ハを^ハあ^ハら^ハ一^ニ切^ハノ^ノ人^ノ既^ハ小^シし^テ一^ニち

あ^ハら^ハは^ハ疾^ハ病^ハを^ハあ^ハら^ハて^ハ病^ハを^ハあ^ハら^ハる^ハ病^ハ也^ハあ^ハら^ハ孔子

も^ハ齋^ハ戰^ハれ^ル二^ノ乃^ハの^ハ比^ハは^レる^ハ志^ハあり^シ

け^レて^ハ病^ハを^ハあ^ハら^ハる^ハ食^ハと^ハ衣^ハと^ハ居^ルる^ハ業^ハと^ハ業^ハ

と^ハ言^ハふ^ハ心^ハを^ハく^ハ一^ニ事^ハ杜^ハ甫^ハ待^ハ命^ハ類^ハ七^ノ多^ク

至^ハ就^ハ飲^ハ食^ハ

くら守師ゆき後駐り人きしつらも
しつらもあつらふさつらも感一
あつらふさつらも感一
唐の物一人あつらふさつらも
らつらもあつらふさつらも
はあつらふさつらも

はあつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも

至願

あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも
あつらふさつらも

鳥はくらくられ葉也ると名つゝゆるりハ後戯の
るる

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

論語先進篇魯人為長府内子嘗曰仍舊貫知之何
何必改作

五位村彦成
百九十九

雅房大納言は才か
後字多此

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

宋之坊
伊川曰

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

何れもわきも益り死るまわしあぬをり
やうれかり

ト翁と情あるり申すも亦愚癡なるもの
人すらも情ありて其は人の好むとあらず
命とすら母も申すは平とていふもの
多し一切の生を恨むとて慈悲の心あり
人倫にわたり

雅房大納言正二位村上源氏号後土御門左政大臣
定實公の男

院の習い時侯法和云院わらわら以後
深草龜山後宇弼也但後深草龜山當時法皇欣
近習 礼記月令禁近習天子親幸者習と擲也。

とつていふも
志乃の心

雅房大の息とあつて唐いふ人とし
以て唐をわたりて侵削の論とあり
す事なれは心く有るれとていふも
いふも其れ心と意好はるるは亦乃宣王
此牛の心とて心と意好はるるは亦乃宣王
たしとていふも
平水を蟻ふつるも世路りぬを伊川は心
海はたしはるる王道也とていふも
いけるぬび山あり 佛法亦殺生とい
ふも殺生をたしとあり
いふもたつかりとあり 孝義郎成の蘭雞
忠事な傳めあらはは宣帝唐玄宗も是と

一我ら又言行録の王荆公廟鷄のよび乃
せらるゝ意好む時ふいと相摸入道崇聖廟拘
をこのまじりてあら果しく其乱の前表として関
東さひぬ者東坡大以殺より事と禁ん
ん次有司を法ありと東坡いふ礼
仲庄の羽に載て蔽蓋不穿為埋狗也死して
捕其肉を食らる況や乞と殺さんやと
畜生殘害 凶害こそあひやう也と蟹
急りぬいといふらるる畜生凶害と云俱
吾ふやと云らるる
家れ身歎らふゆ此は
莊子亦虎狼信通こわらるる可らるるをいふは
又父子相くるといふ事とやそのの鳥歎昆蟲

を夜鶴の子を憶ひ巴猿乃腸と断れ是
桓山の鳥は夢も子の別と非り羊の跪て乳
一鳥は哺と入一禁の花子死母一食り
親をあらうと云らるるやと云らるる様は橋祖と
とく廉の麻とはるるの銷ら魚とわらるる
齊物論あると云らるる歎物何ら鳥と雄
わり縁と此松奔と云らるる鷄同宿の死鳥蒼双
を此乳翠比翼比目比肩のや一至して皆
先は娘と云らるるやと云らるるや詩周南小弁斯の
妬忌と云らるるの餘表のゆき事つありと
あつるや一大鵬の怒と云らるるを寧成り怒らるる乳

尾れこころ敏王の奴蛙をんていふ心解いりらるる
とわきま蟠娘いりて弁さるるの心いさうしういふ
れりしとけいふの心

佛印禪師戒殺鱗甲羽毛諸品類衆生与佛心無二只為
當初錯用心致使今生頭角異水中遊林裏感何忍
將來充日計須更活旋極在砧床口不能言眼還顧或槌
搥成刀刺牽入鑊湯深可畏推毛將羽刮皮鱗剖
割脊毒刺心於氣我君喉誇好味勸妻同噉嗜只
知忍性縱無明不懼隄司毫髮記命終終究業
至面對閻王爭敢諱從頭一報無差妒炭鑊湯
何良避菴賢豪漢戒忌莫把象生當容易貪
他一齋還他齋方聖雷言終不偽差能戒殺勤

念佛決到蓮臺上品會

凡そいけるれを殺しん三教ともい海
ふいへい高明教の殺生戒と五常の内れは
と云ふれは仁をうくしるふ亦釈迦を能仁と
はまへり又道家めを先と誓して孫身
千金方と撰み之虫虫以煙の類として用ひ
眾々々天仙と云ふ十解あり之を後亦魚を
亦木杓のふとらりと舟人我なりとららめい
妻ととらら義にいつらて用ひらあ
牛とて殺しん思ひうくしては鐘
ちある義われ其義とてして死ゆふ羊
とららるるれとなく義らうくして

のび田ふまきさうは歐陽公の放生池陽
て田獵をさうめく民と厚くこれ伏義
の佛者のふあゝ地下忠罪人かまきといふ
にたうく言ふ竹の漢劉公は魚を献じ
わがし劉公はくく凡て天の五穀を
ちして食うる畜と産く者といふ
人乃ち多かりと云ぬ者けりと思ふ
序しけりはるす万物れ生れ
く天地の氣とく人乃ち生れ
わらう人の智わらうをさうく
う天地の性人乃ち貴きとく智わら
也は伏義神農くく草と畜と
数多の毒いあて後五穀とく
をり先天の物生れ事人の
みわらす虫蛇人をくひ蛇虫の
そ敷物くく人けり蛇虫は
生れらるるんやけ理と志は
のくく人乃ち人のくく
人と物とれ同生異類の事
子蟪蛄云殺則害仁放則害義
公とく事ありとく人乃ち
聖賢の制法をくくのみて
ひくく西費て民をくく
くくくく釣とれとく網と

以と酒とのあそび人の公とみえりし出れり
ふらりもねりしに也

病をうけし所 左傳昭公元年晉智昭淫惑

夜明淫心疾門 陶隱居云人生氣中如白雲

之注則魚瘦氣昏則人病邪氣之傷人最為

深甚精神者本宅身以為用身既志又邪精神亦

乱

七情の病の事列しこれより文藝の故事と

らるる諸書の中事多し一醫書にしる多し

業とのみして汗を求む

松康養生論史脈樂未汗或有弗獲反而愧情

一集漢然以流離終朝未餐則莫然思食而曾

子衞哀七日不饑云精神之於形骸猶國之有君也神躁於中

而形表於外猶君昏於上國亂於下也故君子修性以保神志

以全身愛憎不律於情憂喜不畜於意泊然每感而体氣

和平又呼吸吐納眼食養身使精神相親表裡俱濟也文

凌雲の額を書て

世説新語補十六云後雲臺樓觀精巧先稱辛象木輕重然

後造構乃益錙銖相負揚臺雖高峻常隨風搖動而終每

頃倒理魏明帝登臺懼其勢危別以大材扶持之構即

橫壞論者謂輕重力偏故也 洛陽宮殿傳曰後雲臺上壁方十二丈

高九尺樓方四丈高九丈棟楹地十三丈其

章仲將能書魏明帝起殿欲使榜使仲將登榜題之既下頭

髮頓皓然因敕使孫勿復之書文章叙錄曰章誤字仲將涼北杜後人
卒衛恂四休書叙曰誕善楷書魏宮觀多誕所題明帝立陵亦曾觀誕
榜乃竟盛誕轉軒長箱引正使就題之也平矣誕善危懼乃或子孫終法書之也

此らガレとわくくたひめてまかりし
包し山門の慈通傍三日に我らひまを
三つに掌て書てみけくも移す門徒
しこいして移すもえんまふ其のし
われんけしととえん傍にりしと
人といひしと思ひどい自暴り棄る
ていひてつてつれんるまよの世
いと仁く取らんれりし人
善よか
大なりれ藏
論語朝長代答
さめし奇知の位を辞
節の禄よりなど二百を
とらるるの類

此礼
善義
行而
事
之義

多身しきもれと賦として礼も
木のが多
と多といふ
ふをきりて
てふい
てふい

貧しんもれ

曲礼云貧者不以貨財為

礼老者不以筋力為礼

鳥の作らるるぬあそとて

元日親王元日

大極原より多ぬの作らるる

運筆

巨辛
三
三

此ハ
三
三

鳥羽殿

白川院應徳三年立鳥羽殿

元日養賀

陽成院の侍子

元日養賀の侍

新賀の侍

大極殿

拾芥云大極殿朝堂院正殿名八省院

又云八省院天子廣朝即位諸司告朔所又謂之中基

李部王

延喜清子式部之重明親王也其

の... 式部と

吏部... 式部と

云... 吏と

新... 左傳正義

東... 東と枕

陽... 孔子

瓦三石 前此日

殿の... 白河院

法... 大神

文... 大神

大... 大神

日... 大神

天子四方拜 内大神宮ヲ拜玉ヲニハメツミノカク

乐枕

礼記寝東首

孔子も東首

論語御黨篇云

疾君視之... 東首以受生

氣也新安陳氏云天地生氣始於東方或曰疾君視

方東首常時首當在那邊礼記自云寢常當東首矣

平時亦欲受生氣恐不格於疾時為然朱子曰常時

東首亦隨意卧時節如記云謂席何向請衽何趾這

此區三着心
高倉院

見得有隨意向時節然多見東首故王藻云居常亦寢

常東首也常寢於北牖下君同疾則移於南牖下

高倉院の法親堂の三昧傍の法師の律師と云

よとのと時鏡とれて鏡以けくくえて我

らたえくく浅すい事と録いんくええ

鏡以けくくいんくええいんくええ

鏡以けくくいんくええいんくええ

鏡以けくくいんくええいんくええ

鏡以けくくいんくええいんくええ

高倉院 後白河院才三之御子

三昧此云調直定又云正定亦云正受坐案疏云不受諸受

名爲正受遠法師云丈称三昧者何專思冥想之謂也思

專則志不分想冥則氣虛神朗氣虛則智悟其照神朗則無惑

不徹斯二乃是自然之玄符用一而致也天台止觀略明四種三常

坐二常行三半半坐四非行非坐云四種三昧皆依實相是實相是

安樂之法四緣是安樂之行所以始末皆依法華即法華三昧

之妙行也 翻譯名義集更詳也

鏡をとりて

三國志魏夏侯惇後征呂布爲流矢所中傷九月時夏侯惇

与惇爲將軍中子惇爲首夏侯惇怒之每覽照憲怒輒

撲照着地 白樂天感鏡詩今朝一掃拭起拭自照顛

頰容照罷重惆悵背有双盤龍

許渾詩高歌一曲掩明鏡昨日少年今白頭

かゝる字がれ人しくたのしむらてとれと

ふらぬれぬれ我はしるしをそがとふこころいふと
何れもいふはたのまはしるしと物とぬる人とし
かゝりて又もいふれどもしるしぬる人かぬる
しるしは流るのけとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
知しと死せらぬ事とぬるしとぬるしとぬるしとぬる
にぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
ゆして外方とぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
ゆふゆふとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
ぬれどもぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるし
とぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
せしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
やぞとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる

かばやきとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるし
ふとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
衆一とぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
出仕とぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
堪袖の座とぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
らぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
ふとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
媚とぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
れとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
れやとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
とぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる
人のぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬるしとぬる

何んがなまよふ所へんしにんもこれ何んか
中しにやまの何んしとにんしり何んか六條を
内府多の何んし有藩厨片のぞいおがし何ん
しんとしつて市に文字いけし何ん何ん何ん
とふ色しりたりし土師しんもこれ何ん何ん
か既よわの何んししんしんしんしんしんしん
に可ふしりしりしりしりしりしりしりしり
いんしんしんしん

わんしん

故法皇

花園院号_二藤原法皇_一

中系

神皇何んかして作し何んか梁陶隱者

をんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

御膳いあふもこれ何んか何んか何んか何んか
の氣味能毒寒熱温涼也
とほしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

六系何んか故内府有席従一位内大臣和漢の能書
村一源氏通光公孫也

いんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

顔會鹽余康切説文賦也

公國監_{シテ}古者夙沙初作者_ニ海鹽_ニ徐曰黃帝臣也
集韻或作鹽鹽俗作鹽_ニ是_ニ監居銜切_ニ公_ニ取_ニ省_ニ是_ニ
臥_ニ化_ニ切_ニ伏也_ニ父_ニ甚_ニ取_ニ共_ニ伏也_ニ入_ニ臣_ニ事_ニ君_ニ俯_ニ傳_ニ也_ニ

いんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

とんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
とんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

